

安曇野の魅力を伝えるミッションに取り組む

地域おこし協力隊!



すぎもと ともみ
杉本 智美 (45)

安曇野自然保育ブランディング保育士
プロフィール◎名古屋市出身。子育てをしながら、自然保育に6年間携わる。人生最大の夢の安曇野で暮らすことを叶える。

きたむら まさゆき
北村 昌之 (53)

安曇野ブランド構築と交流人口促進
プロフィール◎名古屋市出身。前職は旅行会社に勤務。登山が好きで山の近くに住みたいと思い、安曇野へ移住。天蚕、山岳観光などに取り組む。

やまもと あや
山本 綾 (33)

安曇野自然保育ブランディング保育士
プロフィール◎大阪府泉津市出身。前職は自然保育スタッフとして勤務。今まで培ってきた経験を活かせる安曇野市での活動に惹かれ移住。

固政策経営課 画71・2401

File 001 北村 昌之

安曇野ブランド構築と交流人口促進

唯一無二の素材を探して

「本当の安曇野らしさとは何か。誰もがイメージする自然や風景ではなく、安曇野ならではのブランドとなりえる唯一無二のものが必要」。旅行会社での豊富な経験と持ち前の行動力で、北村さんは、今ある観光資源だけにとらわれず、多くのモノやヒトに関わり、現場を訪れ、自分の目で見ることを心掛けた。

山岳観光の潜在能力の高さ

登山者カウターの設置や登山道整備、燕岳公衆便所クラウドファンディング事業などに携わり、北アルプスの現状を肌で感じてきた北村さん。

改めて「北アルプスと東山は安曇野の最大の魅力。全国の登山者の憧れの地として多くの人が訪れていることを市民がもっと知る必要があるのでは。そして、活かすことで秘められた潜在能力を存分に発揮できる」と話します。北村さんはその「気

KRT インタビュー

Q 活動してみて良かったこと、得たものは?

A 人のつながりです。いろいろ助けられてありがたいです。やっぱり右も左も分からず、顔見知りもない時点でのスタートなので。

Q 苦労したこと、つらかったことは?

A やっぱりコロナですね。観光が自分の領域なので、首根っ子を押しえられた感じです。外からお客様が安曇野を目指してもらおうことが前提ですから。行きたいのに来れない、ましてや来ないでくれという異様な時期もありました。生まれて初めての体験でした。



「天蚕糸はダイヤモンドの原石。磨けば磨くほど輝くが、どう磨けば良いかみんなが悩んでいる」。そんな印象を天蚕に感じ、新しい風を積極的に取り入れることに取り組みました。

そして、昨年夏、若い世代の自由な発想で天蚕の可能性を膨らませようと、東京・大阪・福岡の服飾専門学校を招き、実際に天蚕に触れ、安曇野の風土や歴史などを学び、天蚕を使ったビジネスプランの企画提案をしてもらいました。

「彼らが将来ブランドを立ち上げた際には天蚕糸を使い、どこかで安曇野とつながってくれたら嬉しい」と北村さんは期待を膨らませています。

「天蚕糸はダイヤモンドの原石。磨けば磨くほど輝くが、どう磨けば良いかみんなが悩んでいる」。そんな印象を天蚕に感じ、新しい風を積極的に取り入れることに取り組みました。

そして、昨年夏、若い世代の自由な発想で天蚕の可能性を膨らませようと、東京・大阪・福岡の服飾専門学校を招き、実際に天蚕に触れ、安曇野の風土や歴史などを学び、天蚕を使ったビジネスプランの企画提案をしてもらいました。

「彼らが将来ブランドを立ち上げた際には天蚕糸を使い、どこかで安曇野とつながってくれたら嬉しい」と北村さんは期待を膨らませています。



山岳情報ツイッター「安曇野市山岳サポーターズ」

地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化が進んでいる地方において、都市部の人材を誘致し、様々なミッションを通じて、地域の魅力の磨き上げを図ります。

任期は最長3年間で活動を行い、安曇野市への定住・定着を図ります。

活動の報告動画を公開中



北村さん動画

杉本さん
山本さん動画

安曇野の魅力を掘り起こす

地方に移住し、都市部在住者の視点でその土地の魅力を掘り起こし、全国に発信する任務を担う地域おこし協力隊。

市では平成28年以降、8人の隊員が活躍してきました。これまで、移住定住の促進、農家民宿の推進、地域コミュニティの形成などのさまざまな地域課題に挑んできました。

現在、市には3人の隊員がおり、「安曇野ブランド構築と交流人口促進」を担当する北村昌之さん、「あづみの自然保育のブランディング」を担当する杉本智美さんと山本綾さんが活動しています。

協力隊はスーパーマン?

地域おこし協力隊は、新しい視点で地域の課題に取り組み、魅力や価値を高める活動をしています。その一方で、協力隊は、都市部から移住してきたばかりの安曇野初心者です。

慣れない土地で最長3年間という期間に、成果を上げ続けることは、地域で生まれ育った住民とのつながりがミッションの達成に欠かせません。そして、皆さんの応援やサポートが難しい課題にチャレンジし続ける隊員の活力につながります。

今月号では、3月末で任期を終える北村さんの軌跡、そして杉本さんと山本さん2人で取り組む活動の様子を紹介します。

穂高天蚕糸の振興に新しい風

「天蚕糸はダイヤモンドの原石。磨けば磨くほど輝くが、どう磨けば良いかみんなが悩んでいる」。そんな印象を天蚕に感じ、新しい風を積極的に取り入れることに取り組みました。



天蚕繭の収穫体験をする学生たち



前常念避難小屋・巻道の現地確認

安曇野の可能性が広がる

北村さんは3年間を振り返り、「安曇野の可能性は無限大。みんなで意思統一してビジョンに向かって一緒に進むことができれば可能性がさらに広がります。その可能性は、まだ種を蒔いて芽が出始めたばかりです」と話します。

市では今後、協力隊として北村さんが種を蒔いた安曇野ブランドの芽を育てるため、それぞれの事業を継続的にいきます。

良き仲間、良き相談相手

北村さんは、出会って以来、同じ志を持った良き仲間になりました。そして、良き相談相手として、廃線敷周辺のトレッキングルートや空き家の活用方法などたくさん斬新なアイデアを聞きながら語り合いましたね。やりたいことや夢を実現しようとしている北村さんのような人は大好きで、応援したいと思っています。これからも安曇野で多くの人と関わっていただき、北村さんの夢が実現することを心から願っています。



たからきよし
東平庵 實喜吉さん



コロナ禍でのオンライン打ち合わせ

Message